

松本の舞台

松

本市に舞台が誕生したのは元禄五年（一六九二年）とされているが、はっきりとしたことは確認されていない。しかし、**幕末時代**にはすでに舞台の曳きまわしが行われていたことが想像できる。

また、元文三年（一七三八年）には**車（車輪）**が装備され、現在使用されている形が完成されたようだ。



舞台の構造は、四輪式の外側を黒漆器と金箔で塗装され、一階部分と二階部分に分かれている。一階には、子供たちが太鼓を叩く場所、二階は各町内で祀っている守り神の人形を飾っている。

深

志神社の例大祭天神祭と四柱神社の人道祭には**松**

本重要有形民俗文化財に指定

されている十六もの舞台が市内を曳き廻り、神社の境内に展示される。県外や海外からの観光客にとっても人気で、舞台を力メラにおさめる人も数多く見られる。

各町内で所有している舞台は、どの作品も華やかであり、また勇ましくもある。古い昔から行われてきた舞台の曳き回しは、松本の**夏の風物詩**として、活気に溢れている。

博

労町の舞台は、中心市街地にある十六町会のうち

最も古く、江戸時代後期

の作品と伝えられている。

幕末から使われていたこともあり、破損状況がひどく、平成十二年三月に**大修理**が行われた。

「地域の文化遺産を後世に残していきたい。」という町内の意見を尊重し、現在は、最古であり、**最大級の舞台**として、観光客に披露されている。

